



1. 天然スレートの街並み
2. 金色堂の棟木
3. だれでもわかる耐震診断(その1)
4. 耐震改修工事費用で税控除
5. 大槻玄沢生誕250年
6. 秋の夜長に読む時代小説
7. ココアで蒟蒻トリュフ

天然スレートの街並み～雄勝町

『建築探偵 東奔西走』朝日文庫：藤森照信・増田影久著の「スレートの家」()という写真(眞昭撮影)と文に惹かれて雄勝町を訪れてみました。



天然スレートは玄昌石からつくられ、硯としても利用されています。その玄昌石は別名を雄勝石とも言われ、今でも雄勝町で採掘さ

れています。

雄勝町では、住宅や店舗、蔵や倉庫等の屋根や外装材()としても天然スレートが使われています。このようにふんだんに使われているのは、原産地なればこそのこと。これらの建物が雄勝町の景観をつくり、歴史、文化、風土を語りかけているようでありました。



[雄勝石ギャラリー](#)
昭和6年頃築、平成10年復元。9:00～16:00
(休)火曜日。駐車場有

天然スレートは、明治以降の近代建築、代表的な建物としては東京駅、他には旧北海道庁、京都府庁旧館、猪苗代湖畔にある天鏡閣、旧岩崎久弥邸等に使われています。

金色堂の棟木、そして その輝き

中尊寺金色堂の棟木には、天治元(1124)年、藤原清衡(1056～1128)によって建立されたことや携わった人々「大工物部清国 大行山口頼近 小工十五人 鍛冶二人」について記しています。この他、建立に際して安部氏、清原氏、平氏の三人の女性が関わっていたことも記されています。

平泉町教育委員会「世界遺産推進室」室長補佐の八重樫忠郎さんに、「大工とは、現在の大工とは異なり、手工業者を束ねる人のこと。大行事は現場監督。小工とは現在の大工や漆塗り、螺鈿細工師などの職人。鍛冶とは、様々な金具を作った人と考えられます。金色堂が解体された時、たくさんの釘が出てきましたが、復元する際、その8割もの釘を再利用することができたということです。800年も前の釘を再利用できるというのは、当時の鍛冶の技術がすばらしかったことを物語っていると推察されます」とお話ししていただきました。

このお話を伺って、坂本功著「木造建築を見直す」(岩波新書)の中の「観光地などのガイドさんの説明や案内書で、『この建物は釘を一本も使っていません』というのがしばしばあります。もちろん、日本の大工が継手・仕口に腕をふるって、木組だけでしっかりした建物をつくったことに対するほめ言葉です。しかし多くの場合、まに受けないほうがいいと思います」という文を思い出しました。800年前に建てられた、方三間(一辺が5.5^尺)の小さな仏堂にもかかわらず、釘が使われていたというのであれば、その当時、釘の重要性は認識されていたと考えられます。棟木に「鍛冶二人」と記されたことは重要な意味をもっていることとなります。

この他、八重樫忠郎さんとの会話の中の「外国の方は、『金色堂は宝石箱のようだ』と言われる」という言葉が印象的でした。現在の鞘堂は論外として、1288年に鎌倉幕府によって鞘堂が作られる前は、金色堂は風雨に晒されていたこととなります。「ものの本には、東や南から金色の光が見えたという記述がある」とも八重樫さんは語られました。俵万智さんが「堅牢な建物のなか五月雨を忘れて眠る金色堂は」と歌っています。同感、同感。いつの日にか、東から、そして南から、金色堂の光を見られることを願っています。

だれでもわかる耐震診断(その1)

一関市では木造住宅の耐震診断を実施し、耐震診断報告書が市から依頼者に送付されています。

耐震診断をされた一部の方から、内容が難しく良くわからないので説明してほしいという問い合わせがあります。おそらく、結果だけを見て、どうして1.0未満(倒壊の可能性のある)なのだろう

うかということを知りたいと思うのでしょうか。

今回は、この内容についてちょっとだけ深く入って見ようと思います。1.0未満でも内容は様々で、どこに欠点があるのか、どこを改修すれば強くなれるのかというのは診断書の内容を詳しく知ることが必要です。

まず、診断結果ですが1.5以上が倒壊しない、1.0以上～1.5未満が一応倒壊しない、0.7以上～1.0未満が倒壊する可能性がある、0.7未満が倒壊する可能性が高いという判定です。

この数値はどのようにして導きだされたかというところと大地震に対して倒壊の可能性の診断を行うものであって、中地震に対して行っているのではないということです。

ある住宅が0.5と耐震診断されたものに対して別な専門家(といえるかどうか)は「大丈夫、倒壊しませんよ」とほとんど根拠のないことを言っていました。その人の言っていることはおそらく中地震に対してのことだと推察されます。調査、計算もせずに安易なことをいうのはいかがなものかと思ってしまう。

ここでいう大地震とは、震度6強～震度7をいいます。現在、この地震に耐えるためには建築基準法の1.5倍以上の耐力を必要とされ品確法では耐震等級3に相当するということです。これから新築する方も注意が必要です。(次号へつづく)

耐震改修工事費用で税控除

昭和56年5月31日以前の旧耐震基準で建てられた家で、ある一定の要件を満たせば、今年度から2008年末までに行った耐震改修工事の費用の10%相当額(最高20万円)が所得税そのものから減額されます。また昭和57年1月1日から存在する木造住宅で耐震改修工事を行い、工事費用が30万円を超えた場合に最大3年間、固定資産税が半減される制度もあります。詳しくは、各市町村の住宅建築行政担当課へお問い合わせください。

大槻玄沢生誕250年

大槻玄沢は1757年9月28日(太陽暦11月9日)に一関に生まれ、一関藩医、そして仙台藩医となりました。その後、江戸に出て杉田玄白・前野良沢に蘭学を学び、わが国最初の蘭学塾「芝蘭堂(しらんどう)」を開きました。郷土の誇りである「大槻玄沢」の生誕250年、没後180年を記念しているいろいろな催し物が開催されます。

「作州津山 宇田川家からみた大槻玄沢」

講師 幸田正孝(元国立豊田工業高専門学校教授)
日時 9月24日(月)15時15分～16時30分
会場 一関文化センター中ホール 入場無料

「大槻玄沢関係史跡めぐり」

日時 9月30日(日)9時～15時30分

参加費 無料(昼食各自)

定員 25名 申込先 一関市博物館 29-3180

シンポジウム「21世紀に語る大槻玄沢」

日時 10月14日(日)13時～16時10分

会場 一関文化センター中ホール 入場無料

・・・一関市博物館開館10周年記念特別展・・・

「GENTAKU～近代科学の扉を開いた人～」

日時 9月22日(土)～11月7日(水)

会場 一関市博物館(9:00～17:00)

入場料 一般300円、市内の小中学生は無料です。

秋の夜長に読む時代小説

山本周五郎も読んだ。池波正太郎も読んだ。藤沢周平も読んだ。次は何を読もうか・・・と悩んでいる方へ、佐伯泰英(さえきや すひで)さんの『密命シリーズ』がおすすめです。次代の巨匠の座に最も近いとも言われている作家だそうです。

『密命シリーズ』は彼の時代小説の一作目。1999年に始まって、今年の6月に17巻目が出版されました。奇しくもこれが、彼の時代小説百冊目。その題名が「初心」。お人柄がしのばれるようで、すっかり夢中になってしまいました。時代は江戸。主人公の金杉惣三郎を中心に八代将軍吉宗や南町奉行大岡越前、江戸町火消等が登場します。独身だった主人公が結婚し、子が生まれ、その子ども達が成長し物語が展開していきます。久しぶりに胸をときめかせてくれる小説に出会いました。

ココアでコンニャクトリュフ

TBSの「はなまるマーケット」で、紹介していたもの。「秋のおやつにどうかな?」とチャレンジしてみました。おすすめです。

<材料:4人分>

- ・コンニャク 1枚
- ・水 1カップ(200cc)
- ・レモン(スライス)2枚
- ・砂糖 100g
- ・ココア(無糖) 適宜

<正しい作り方>

フライパンに水、砂糖、下処理した(コンニャク())を入れ、強火で煮る。

沸騰してきたら、レモンを入れ強火のまま12～13分煮詰める。

汁ごと皿に移し冷ます。

冷めたら、キッチンペーパーで水気を取り、ココアを全体にまぶして出来上がり。

コンニャクの下ごしらえ(忙しい時はしなくてもOK)

塩(小さじ1)でもみ、水あらいする。

水とコンニャクを入れ、沸騰後2分程茹でる。

発行 (株)あべ建築開発 一関市巖美町字沖野々145-2
<営業> 建築工事業: 一級建築士事務所: 宅地建物取引業
総編集長: 阿部 眞昭 編集長: 阿部 えみ子
電話 0191-29-2511 fax 29-2583